
ウルトラマンシャイン

Hikari

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ウルトラマンシャイン

【コード】

N7990X

【作者名】

Hikari

【あらすじ】

主人公光輝^{ひかり}はある日、
登校している途中で知らない場所に行ってしまう。(知らぬ間に転生)

そこはなんと光の国だった。
プラズマスパークの力により超人化してしまった主人公は宇宙警備隊に入ることを決意する。

11/10(木)内容を少し編集しました。

読んでる人は読み直したほうが良いかも知れません。

そして意識が飛んでしまった。

――――
目を開け……..れなかった。

それは何故か、それは眩しすぎるからだ。
ずっと直に太陽見てる感じ、だけど暑くなく暖かい。
つい俺は眠ってしまった。

――――
銀と赤の巨人が1人、不思議な輝きを放つ星に向かっていた

メビウス「此方メビウス 帰還します」

タロウ『了解』

その時、

ピカア―

プラズマスパークタワーの方で何かが輝いた。

メビウス「!?!? あれは何だろう?」

メビウスの目線の先には、銀色族の青年が1人、プラズマスパーク

タワーの近く倒れている。

メビウス「行ってみるしかないか」

メビウスはそう言くと方向を変え、青年の近くに着地すると息があるかを確認し、何処かへ連れ去った。

転生（後書き）

初投稿です

期待とかしないでー（しなれと思うけど）

タロウと対面

んーよく寝た、よし起きるか。
ん？

光輝「ここどこ!？」

見たことねえ部屋。誘拐？

ガチャッ

ドアが急に開いたので、急いで振り向いた。

光輝「誰っ!？」

振り向いた俺の目の前にはなんと……

光輝「タっタロウ!？」

えっ?何此処、円谷プロのスタジオ的な？

光輝「あっあのっ此処は何処ですか？」

タロウ『此処は宇宙警備隊本部だよ。』

へえー此処は宇宙警備隊の本部なんだー

タロウ『確かに君が地球人なのであればこの光は眩しいかもしれな
いな。うーん……』

タロウは少し考えてからこう言った。

タロウ『一回検査してみよう。そうすれば本当の事が分かるだろう』

そして俺は検査を受ける事になった。

タロウと対面（後書き）

短くてすみません

宇宙警備隊に入隊（といっても訓練生）

検査して分かった事。

それはプラズマスパークの力により肉体が変化したってこと。
つまり、地球人であることを証明出来たってわけ。

分かった時タロウはめっちゃ驚いていた。（当たり前か）

タロウ『でどうする？』

光輝「何をですか？」

タロウ『決まってるだろ。今後についてだ。』

光輝「あっ」

そうだったー帰るとこねえーじゃん。どうしよう……………

そつだ！！！

光輝「俺を警備隊に入れてください！！」

せっかくウルトラマンになったんだ。カッコいいことしてえし。

タロウ『それなら話が早い君を訓練生として登録しよう。ところで君の名前は？』

確かに今まで気になんなかったけど自己紹介してねえや。

光輝「俺は光輝っていいいます。でもウルトラマンコウキってなんか変だから名前変えていいですか？」

タロウ『コウキでも別にいいと思うが変えたいなら自由にしていると思っぞ』

んじゃどうしようかなあー光だからライト？は変だし、輝くはシャイニングだからシャイン

ウルトラマンシャイン

おっ結構カツコよくな？

光輝「シャインなんてどうですか？」

タロウ『いいんじゃないか？』

こうして俺はシャインとして宇宙警備隊の訓練生となった。

宇宙警備隊に入隊（といっても訓練生）（後書き）

短くてすみません

人物紹介 設定

この物語の世界は原作「ウルトラマンメビウス」の数年後です。

光輝こうき

この物語の主人公

身長168cm 体重47kg

好きなもの 特撮（特にウルトラマン）因みにウルトラマンヒカリが一番好き。

嫌いなもの 可愛くもないのに調子に乗った女子

ウルトラマンシャイン

身長38m 体重27000t

光輝がプラズマスパークの光により肉体が変化した姿。

銀色族

ウルトラマンメビウス

身長49m 体重35000t

超人化した光輝を運んだ。

かつて地球を守ったウルトラマンの1人

ウルトラマンタロウ

身長53m 体重55000t

ウルトラの父、母の実の息子でありメビウスの教官。

かつて地球を守ったウルトラマンの1人。

プラズマスパーク

正式名称 プラズマスパーク核融合装置。

ウルトラの星の人工太陽。

この星の人間は装置から発せられるディフレーター光線により超人へと進化した。

人物紹介 設定（後書き）

シャインの身長、体重は増えていく予定です。

シャインの能力

今、俺シャインはスポーツ的なものを受けている。
分かったこと、この体はチート。

腕力は250000tのタンカーを持ち上げられる(ウルトラマン
とレオは200000t)でも何でタンカー何だろう？

地上をマッハ1.5(時速1836km)で走れる(80が170
0km)

ジャンプ力は1跳び1200m(レオは1000m)

マッハ22(時速26928km)で飛行可能(タロウはマッハ2
0)

650ノットの速さで水中を移動(80は630ノット)

つまり、現時点でほぼ全員のウルトラ戦士の身体能力を上回ってい
ると言うこと(計る度タロウの口が開いた)

しかし、全てのウルトラ戦士を下回るものがあった。

それは………ウルトラマンの代名詞「光線」である。
全く出せないのだ。

体にエネルギーを帯びさせて強化したりするのは可能で、エネルギ

「はタロウ達の何十倍もあるらしいのだが。
タロウの考えでは

タロウ「体の造りが少し違うから。」

超ショックだった。落ち込んでいるとタロウが、

タロウ「体のエネルギーを光線に変える武器がある」

と教えてくれた。

そういやあヒカリのナイトブレスはそんな機能だったか。

しかし、それは高価なので正式に隊員になったらプレゼントしてくれると約束してくれた。

シャイン「よっしゃー訓練がんばるぞー!!!」

シャインの能力（後書き）

そうですチート（欠点あり）とはこのことです。

80ってタロウより足が速いんですねー。

てか今回台詞少なっ！！

修行

スポーツテスト？から数日

タロウは俺の有り余るエネルギーを抑えるためテクターギアを試作品プロトタイプを装着させた。

そして今、タロウと修行している。

シャイン「でりゃあー！！！」

シャインは、エネルギーを込めたパンチを放つ。がしかしタロウはあっさりかわす。

ドゴーン！！

シャインのパンチは、タロウのいた場所にあつた岩を砕いた。

タロウ『ほうテクターギアをつけていてもそれほどのパワーが出せるとは。だが。』

タロウはシャインの背後にまわり。

タロウ『ふんっ！！！！』

ズザアアアー！！

タロウの蹴りがシャインを吹っ飛ばす。

シャイン「くっそおー！！」(パワーは互角なのに)

タロウ『集中が足りん！！そんなんじゃ隊員になれんぞ、もっと集中力を高めるんだ！！』

ダッ！！ガッ！！

タロウの集中攻撃が続く。

シャイン「くっそ！！！！」

ブウン

またもやシャインのパンチはタロウにかわされる。

しかし、シャインには見えていた。タロウが背後にまわってシャインにパンチを・・・

タロウ『なっ！？』

ガッ！！

タロウは吹っ飛んだ。が着地する。

シャインがタロウの動きを読んで後ろに蹴りを入れたのである。

タロウ『よくやった。今の感覚をしっかり覚えるんだぞ！！』

この様な修行を何年も続けた。

修行（後書き）

初の戦闘描写です。
うまく書けてるかな？

修行終了そして入隊

修行から5年。俺の修行も終盤を迎え必殺技も出来た。

シャイン「シャイニングクロス!!!」

空中に浮かんだ2つの光のカッターを回し蹴りの要領で蹴り相手を左右から攻撃する

しかしタロウには防がれてしまった。

え？なんでカッターを出せるかって？

それは修行の成果。

ではなく俺はウルトラブレスレットを2つ使っているからだ。
2つはズルい？まあいいじゃん。

今日の修行が終わった後、タロウ教官に呼び出された。

シャイン「タロウ教官、何でしょうか？」

タロウ『そろそろお前を訓練生から卒業させようと思う。』

シャイン「本当ですか？」

タロウ『そうだ。後はもう実戦で学ぶしかないと思ってな。』

こうして俺の卒業& a m p ;正式に入隊が決まった。

数日後 入隊式

ウルトラの父『おめでとう。君は今日から警備隊員だ。警備隊には危険な任務も多い、覚悟は出来てるな？』

シャイン「ハイっ！！！！」

そして俺の胸にカラータイマーが授けられた。

あっメビウスがいる。

そう思った時、彼が近づいて来た。

メビウス『おめでとう。君があ那时的青年だね？』

シャイン「えっ？」

会った事あったっけ？

タロウ『君を本部まで運んだのは彼だよ。』

シャイン「そうだったんですか？ありがとうございます。」

メビウス『僕もタロウ教官の教え子だから、また会う機会があるかもしれないね。』

そう言うと彼は立ち去った。

タロウ『おっといけない忘れるところだった。』

タロウは急に思い出したように箱を取り出し、俺に渡した。

シャイン「これってもしかして……」

タロウ『約束だからな。』

シャイン「ありがとうございます！！開けてもいいですか？」

タロウ『もちろんだ。』

開けると中にはブレスレットが2つ入っていた。

タロウ『それはお前の為だけに作ったシャイニングブレスレットだ。ウルトラブレスレットの強化版でそれにお前の望んでいた光線を出せる機能を足しておいた。』

俺は早速シャイニングブレスレットを着けてみた。

タロウ『因みにお前の膨大なパワーを制御する装置を付けておいた。来るべき戦いの時に解除するんだ。』

シャイン「ハイっ!!」

タロウ『ではゆけっ!! シャイン!!』

この日、1人の勇者が旅立った。

ウルトラの父『タロウ、お前に聞きたいことがある。』

父さんに呼ばれたので行ってみると父さんは真剣な表情をしていた。

ウルトラの父『シャインは何者なんだ？住民の登録がないし能力も異常に高い。』

タロウ「彼は異世界の地球人です。」

父『異世界の！？次元を越えてきたのか。そして彼が我々と同じ姿をしているという事はディフレーター光線の影響か。』

ディフレーター光線とはプラスマスパークから発せられる物質のことだ。

タロウ「恐らくはそうだと思います。」

ウルトラの父『様子を見るしかないなあ。』

タロウ「はい。」

修行終了そして入隊（後書き）

宇宙警備隊の入隊式ってどんなんだろう？

初めての任務（前書き）

第2章突入です。

いよいよ本格的なストーリーがスタートします。

初めての任務

俺が警備隊員になってから数ヶ月たったある日、俺にとって初めての任務が来た。

シャイン「異常な量のマイナスエネルギー!？」

ある惑星で異常な量のマイナスエネルギーが検知されたらしい。

タロウ『そうだ。何か嫌な予感がするんだ、怨念の様な何かがある』

シャイン「怨念……」

タロウ『危険な任務になるに違いない。何かあったらウルトラサインを送るんだぞ。』

シャイン「ハイっ!!」

こうして俺はそのマイナスエネルギーが感知された惑星へと向かった。

初の戦闘（前書き）

戦闘描写って難しい。

初の戦闘

辺りを探索して1時間、

惑星シグマはどうかやら死の星の様だ。

半径10km以内に生命反応はない。では何故？

！？

急に生命反応が現れた。

前言撤回、この星には少なくとも・・・

シャイン「怪獣はいる！！」

俺は左に跳び火球を避けた。

ドガンー！！

外れた火球は地面をえぐった。

そしてこの星には宇宙人もいるはずだ。

ゼットンには生物兵器だ野生でいるはずがない。

シャイン「ゼットンがマイナスエネルギーの正体なのか？」

いやゼットンからはマイナスエネルギーは感じられない。

シャイン「どうやって倒せばいいんだ？」

ゼットン「1兆度の火球やゼットン光弾、電磁バリアー、テレポーターシヨンが使える厄介な相手だ。どうしようか。」

ゼットン『ゼットーン』

ブウォン！！

また火球だ。またもや横に跳んで避ける。

ゼットンの弱点って何だっけ？

ゼットンの弱点ゼットンの弱点。

思い出せねえ、自力で探すしかねえか。

シャイン「シャイニングスパーク！！」

シャツ

ゼットンは止まりバリアを張る。

キンツ

バリアーを解除するとゼットン光弾を撃ってきた。

シュバウンツ シュバウンツ シュバウンツ

俺は間一髪、三発とも側転して避けた。

俺は一回飛んで様子を見ることにした。(ゼットンには飛行能力がない。)

光弾をよけながらウルトラスパークで攻撃する。
が、やはりバリアーで弾かれた。

シャイン「あれをやってみるか。」

“あれ”とは光線の事だ。しかしエネルギーの消費は控えたいため
カッター型の光線にしておく。

シュツ!!シュツ!!シュツ!!

ゼットンはバリアーを張りガードする。 が当たった。

そくだゼットンの弱点は頭上だ。

頭上にバリアーは張られてないためシャイニングスパークと違い真
っ直ぐ飛ぶ光線は当たったというわけだ。(シャインは飛んでいて
真上にいる。)

ゼットンは攻撃が当たり混乱していた。

おかしいなゼットンには感情などがないから混乱なんかしないんじ
ゃ?でも今はそんなこと考えている暇はない。

シャイン「今しかないな。」

ゼットンに向けシャイニングスパークを放った。

ドババババーン!!!

ゼットンは跡形もなく砕け散った。

??? 「惜シイ戦力ヲ失ツタ。マアイイ奴ハ兵器トシテハ不完全ダ。
ドウセ“コイツ?ノ訓練ノ相手ニスル予定ダツタノダ、別ノヲ用
意スレバイイ。”

シャイン「ゼットンが来たのは確かこっちだったよな、こっちに行
つてみれば何か分かるかな?」

ゼットンが現れたってことは、もっとヤバいのが居るかもしれない
な。

でも、

シャイン「やるしかねえか。」

初の戦闘（後書き）

誤字脱字や意見感想等があれば教えて下さい。

人物紹介 設定 2

登場人物

ウルトラマンシャイン

> i 3 3 6 4 4 — 4 2 3 8 <

> i 3 3 6 1 9 — 4 2 3 8 <

(あくまでイメージ)

身長 転生時 3 8 m 現在 4 2 m

体重 転生時 2 7 0 0 0 t 現在 3 2 0 0 0 t

光輝の転生後（正確には肉体変化した後）の姿。

能力がとても高いが、他のウルトラマン達と違い、

肉体の造りが少し違うため光線が使えない。

タロウから授かったシャインングブレスレットのおかげで光線を撃てる様になったが、

他のウルトラマン達よりもエネルギーの消費量が多いためあまり使わない。

必殺技

シャインングスパーク

ウルトラスパークとよく似ていて脳波によりコントロール可能。

光線の代わりにシャインがよく使う。

ゼットン戦で使用。

シャインングクロス

シャイニングスパークを相手に向かって回し蹴りの要領で蹴って飛ばし攻撃する。
セブンのウルトラノック戦法を応用したゼロの技のパクリ。
タロウとの訓練にて使用。

シャイニングカッター

三日月状のカッター光線。
連続発射可能で真っ直ぐ飛ぶ。
ゼットン戦で使用。

武器

シャイニングブレスレット

シャインの為にタロウが、ウルトラブレスレットを強化改良した。
光線の撃てないシャインの為に光線が撃てる様になる機械が入っていて、
シャインの膨大なパワーを押さえる機能もある。
ブレスレットの原動力はシャインのエネルギー。

あくまでイメージなので違うんじゃないかこっちのほうがいいと思う様なものがあれば教えて下さい。

基地発見

??? 「奴が来ル。」
早く対策ヲ取ラネバ。

――――
シャインは岩だらけの中に一ヶ所だけ不自然な金属で出来た扉を見つけた。

シャイン「ここか？」

間違いない。物凄い量のマイナスエネルギーを感じる。

シャイン「さてどうしようか、突っ込んでみるか？それとも・・・」

！？

ゴモラ『キシャーッ』

金属の扉が開きゴモラが現れた。

シャイン「向こうの方から来てくれたか。」

シャインは踏み込み、間合いを詰め、エネルギーを込めたパンチを放つ。

しかしゴモラにはあまり効いていないようだ。

ブウン！！

ゴモラの尻尾がシャインに迫る。

ガッ！！

シャインはそれを受け止めた。

！？

シャ「うわぁ！？」

その時シャインの体が持ち上がり、

ドガン

シャイン「ぐっ！！」

岩に叩きつけられた。

シャイン「クソっ！！なんてパワーだ。」

シャインは後ろに跳び距離をとる。

シャイン「確かウルトラマンの時は尻尾切ったら弱くなったんだっけ？

ならっスラッシュバインド!!」

ウン!!

クルツ ボン

紐状のビームがゴモラの尻尾に巻き付き切断した。

そしてゴモラに蹴りを入れる。

ズガン!!

今度は吹っ飛びゴモラは岩に突っ込んだ。

ゴモラ『ギシャー!!』

シャイン「とどめだ!!」

シャインは腕にエネルギーを込めパンチを放った。

ガッ!!!!

ゴモラは地面にめり込んだ。

ゴモラはピクリとも動かない。

その時背後から見ていた者がいた。

基地発見(後書き)

背後に居た者とは？
続きます。

強大な闇（前書き）

ほんとのほんとに遅くなつてすみません

強大な闇

??? 『流石ダ。不完全体デハアルガ、アノゼットンヲ殺ツタダケハアル。』

そう言いながら背後から現れたのは、

シャイン「ジエロニモン!? お前が原因か？」

そう、現れたのは怪獣しゅう長ジエロニモンだった。

ジエロニモン『ソウダ。マイナスエネルギーニ気ツイテ此処マデ来タ事ハ誉メテヤロウ。』

ダガモウ遅イ、怨念ガ造リ出シタ最凶ノ怪獣八目覚メタ。』

シャイン「何だと!？」

ジエロニモン『サア現ロ! タイラントオオ!!!』

ゴゴゴゴゴゴ グラグラグラグラ

タイラント『ギャシャアアア!!!』

基地の壁を突き破りタイラントは現れた。

テレビで見たのはそんなに強く無さそうだったのに、
何だ？あの怪獣から発せられる圧倒的なパワーは、

シャイン「こんなのに勝てるのか？」

タイラント『ギイシエー！！』

タイラントは右腕の大きな鎌で攻撃してきた。

シャイン「くっ！！」

シャインは後ろに跳び避けた。

！？

シャイン「なっ！？斬撃波だと！？」

シャインは避けれず腕を交差してガードした。

ジェロニモン『ドウダ？コレガ今マデ溜メテキタ怨念ノカダ。』

強大な闇（後書き）

とても短くてすみません

VSタイラント（前書き）

遅くなりました。定期テストだったんです。これホントなんだけど正直に言っと

「ストーリー決まってるけど進め方わかんねえ！！」

まあそんなわけで初心者の僕を許してください。

それともう一つ

「サブタイトル思いつかねえ！！」

V S タイラント

ドウオーン!!!

シャイン「ぐはっ!!!」

俺超ピンチなんですけど!!!

グル　グルルルル

!?

いきなりタイラントの動きが止まった……

かと思いきや……

キュイイイイン!!

シャイン「吸引アトラクタースパウト!?
俺を食おうってか?」

そつさっきの音は鳴き声ではなく腹の音だったのである。

タンツッ！

シャインはギリギリで避け、

タイラントはシャインの後ろにあったゴモラの死体を呑み込んだ。

シャイン「危ねえ、呑み込まれるところだった。」

ジェロニモン「タイラント何ヲシテイル！！早く殺レ！！」

タイラントはそれを聞き此方を向くかと思いきや、

ジェロニモン「ヤ、ヤメロ！！グアアアア！！」

！？

ジェロニモンを吸収し始めた。

パツクン

シャイン「仲間を食べた？」

タイラント「仲間ダト？笑ワセル。奴ハ俺様ガ復活スル道具ニ過ギナイ。」

其処にはゴモラの足とジェロニモンの羽を合わせ持った異形としか言い様のない怪物がいた。

シャイン「EXタイラント!?!」

そうタイラントはEXタイラントに進化したのである。

タイラント『サア楽シマセロ、貴様ラ光ノ戦士ヘノ復讐ノ時ダ!?!』

タイラントはジェロニモンの声でそう言うと鎌を振った。

シャイン「まずいつ!?!!」

ブウン!?!!

シャイン「がはっ。」

ズドーン!?!?!!

岩にぶつかるシャイン。

シャイン「なんだこのパワーは今までとは比べ物になんねえ。」

タイラント『ソリヤソーダ。奴ガ溜メコンダ怨念ノパワーヲ取り込
ンダンダ。』

サア続キラシヨウジャネーカ。』

がしっ!!!!

シャイン「うっ。」

タイラント『モウ終ワリカア？光ノ戦士モタイシタコトネエナ。』

シャインはタイラントの腕の鎖に捕まっていた。

シャイン「ぐっ（なんとかしねえと死ぬ）。」

VSタイラント（後書き）

タイラントなんだかヤプールっぽいな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7990x/>

ウルトラマンシャイン

2011年11月20日12時59分発行